浦安市

1. ウボラとは「フィンランド語でアドバイスをする場所」との事、浦安市においては、子育て世帯において核家族世帯が９割を占めているのと、ひとり親世帯の増加などで、相談する身近な人がいないことや、保護者の負担を和らげるためにどの様なことをすればよいかで、平成２６年度から取り組みを始めた。目的として「妊産婦期から就学前までのこどもの健やかな成長と発達支援」「母親・父親・兄弟・家族全体の健康サポート」「すべての方のリスクの早期発見や早期支援」で取り組んでいる。平成２６年度に３０億円の基金積み立てを行い、中長期的期間にわたり安定的・継続的に取り組んでいく為に財源確保を行った。最初に対象事業、４つの「子育てケアプラン・子育て支援ギフト、産前産後サポート、産後ケア、子育てモバイルサービス予防接種スケジュール作成支援」取り組んだ。２７年度は各関係する課との連携を図り１８事業へ、２８年度は２０事業を行っている。　子育てケアプラン事業は、１回目は保護者すべての方と面談し、子育てケアマネージャーと保健師で子育てに関するプランを作成する。２回目のプラン作成時に子育てを支援するギフト（ファミリーリュック・おでかけポーチ・刺繍ステッカー・ラトル・３ｗａｙマルチケット）１万円相当を「こんにちは　あかちゃんギフトとして渡している。３回目のプラン作成時には（バウチャー券５０００円）市内で利用できる金券を渡している。プラン作成はＩパットで即作成できるようにシステム開発をおこなった。「ひとりじゃないよ」のハンドブックと連携されていて、困ったときにどのようにすればよいかわかるようになっている

川越市

1. 平成１８年度から管財課等で総合計画の施策で取り組み始め、平成２４年度に公共施設マネジメント担当を新設し、平成２８年度社会資本マネジメント課で公共施設等総合管理計画の策定、６章からなるきめ細かな計画で、スケージュールとしては、１０年計画で取り組む計画である。公共施設マネジメント基金条例を作り毎年２億の積み立て、８億円程度の事業が実施できることを目標に取り組む計画であるが、予定通りの積み立てができていない。公共施設等の現状は学校関係が５３.２％、行政関係が１３％、公営住宅が７．６％、スポーツ施設等が８．９％、その他で１７．４％である。建設されてから４０年～３０年が６割程度をしめている。進め方については、推進体制を検討委員会・部会などで協議を重ね、大学との連携も図りながら、市民には広報による周知を随時行い理解を求めている。取り組んだ事例では、小学校・公民館・図書館の複合施設を一体化した建物で有効活用をしている。焼却施設を活用し民間によるＰＦＩの温水プール等で、目標１７万人の利用が５０万人の利用や隣接の市町が同じ料金で使用できるホール運営を行い自立することを目標に取り組んでいる。